

# 立憲民主党 さっぽろNEWS

発行：立憲民主党札幌支部 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目8番地 TEL:011-241-7117

2025 6/6

No.029

## 第2回定例市議会

### 代表質問 篠原すみれ市議（白石区）

第2回定例市議会の代表質問が5月29日に行われ、民主市民連合の篠原すみれ市議が登壇。道路の陥没対策や子ども・若者への支援など12項目質問した。

#### 道路の陥没対策

地下インフラに起因する道路の陥没事故が全国各地で発生している中、篠原市議は「市民生活の安全確保と都市機能の維持が喫緊の課題」と指摘。埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故を受けて設置された、道路管理者と地下占用事業者による情報共有の場「北海道地下占用物連絡会議」の動向を踏まえ、陥没対策を一層強化することが重要だと求めた。

道路の下には、市が管理する上下水道管のほか、民間事業者が管理するガス管や通信・電力ケーブル等の埋設物が多数設置。一方、老朽化したインフラの急増や建設業の担い手不足が続く社会情勢の下で、各管理者が相互に連携し、より効果的にメンテナンスを進めていくことが重要となっている。

天野副市長は「連絡会議などを通じて、陥没リスクを総合的に評価し、各地下インフラの点検や修繕計画を見直すことで損傷の早期発見につなげる」と答えた。

#### 子ども・若者への支援

大通公園やその周辺、夜間の繁華街に集まる子ども・若者を支援する民間団体の活動から、「(そこに集う子どもたちは)虐待や貧困、不登校など、さまざまな事情を抱えていながらも、支援が届きにくい状況であることが分かっている」と指摘。「今一度、子ども・若者を取り巻く状況を把握し、今後どのような支援や取り組みが必要なのか検討することが重要」と促した。

秋元市長は、さっぽろ子ども・若者支援地域協議会のネットワークを活用し、複合的な問題を抱えた子ども・若者の支援に取り組んできたと報告。今後、これに加え、民間団体とも連携し、社会全体で全ての子ども・

若者の健やかな成長を支えていきたいと答えた。

篠原市議は、大阪市内で孤立した若者を支援し

ている「認定NPO法人D×P」の活動に触れ、「こうした取り組みが子ども・若者への支援につながることを期待している」と強調。また、「彼らの環境を抱えている事情に寄り添うことが必要であり、包括的に支える取り組みが不可欠」と訴えた。

#### 食のさらなるブランド化に向けた取り組み

篠原市議は「食に関する一歩進んだ特徴ある取り組みを展開し、他地域との差別化を図る必要がある」と進言。「食はあらゆる業種にまたがる分野。各分野の関係者が協力することで市全体の産業の付加価値創出が期待される」とし、国内外から食に関わる人・企業等を引きつける魅力や環境を構築・整備することが必要だと主張した。

「食」と「映画」を結びつけた「北海道フービーフェスティバル」が10月10日から3日間、札幌市内で開かれる。映像等を活用し、北海道・札幌の食の魅力を国内外に発信するほか、観光・ITなど異分野の事業者や教育・研究機関等とのネットワークを構築し、札幌発のインバウンド向けの商品開発や、官民連携によるイノベーションの場を創出する。

加藤副市長は、こうした取り組みを通じ、さまざまな産業に波及効果を生み出すことで札幌の食の付加価値を高めると答弁。北海道・札幌の地域特性を生かした「美食のまち・さっぽろ」のブランド化を積極的に推進すると述べた。



代表質問を行う篠原市議

## 札幌市医師連盟と意見交換



市議会民主市民連合（林清治会長）は5月13日、市内で札幌市医師連盟（今真人委員長）と意見交換会を行った。林会長は「市民の命と健康を守るため、必死に尽力されている皆さまに心から敬意を表する。本日の意見を踏まえ、国への要望や今後の議会議論に生かしていきたい」とあいさつした。

今委員長は、インフレ局面にある社会・経済情勢の中、医療現場の厳しさが増している現状を説明し、市民が健康で安心して暮らせる街づくりには、物価・賃金上昇への適切な対応が必要だと表明した。

意見交換会を通じて、夜間急病センターの運営や、小児救急医療体制の拠点化、物価高騰による影響を価格転嫁できないため厳しい経営環境にあること、開業医の減少、身寄りのない人への対応など、さまざまな医療の課題を共有した。

民主会派のかんの太一幹事長は、小児救急医療体制を見直し、夜間急病センターに拠点を設けるとした市の検討案に触れ、「持続可能な体制を堅持しないといけない。市と議論していく」と述べた。

### 第2回定例市議会【開会】

## 補正予算案など提出 老朽下水道管を調査

第2回定例市議会が5月21日開会し、埼玉県八潮市で発生した道路陥没事故を受け、秋元克広市長は、下水道管の損傷や劣化の調査費として6億6400万円を下水道事業会計に追加する補正予算案など議案30件を提出した。会期は6月10日までの21日間。

下水道管の調査は国の要請によるもので、関連する補正予算案は5月29日の本会議で可決した。調査対象は設置から30年以上が経過している内径2メートル以

上の下水道管（市内184キロ）。八潮市の陥没現場と類似条件となる管路（約3キロ）を優先し7月まで、それ以外は来年2月までに調査する。

一般会計に11億9300万円を追加する補正予算案も提出した。このうち、札幌駅前の商業施設「エスタ」の解体費用として4億6400万円を盛り込んだ。本年度中に解体工事を本格化させる。

また、定山溪地区を周遊する自動運転バスの実証実験に1億400万円を計上した。同地区周辺に点在する観光スポットの周遊を促すのが狙い。実験は秋ごろを予定し、期間は約1カ月間。自動運転レベルの0～5のうち、「レベル2」（部分運転自動化）で行う。8人乗りのバスを使用し、定山溪ダムや足湯施設など、人気の観光スポットを巡るコースを設定する。

このほか、2026年度から適用される税制改正に伴うシステム改修費（2億7千万円）や、避難所の生活環境向上に向けた備蓄物資の整備費（8700万円）、市公式ホームページ運用システムの再構築（9千万円）など。一般会計の補正予算案は本定例会の最終日（10日）に採決する。

### 道議会民主・道民連合

## 後期体制を決定

会 長 沖田 清志 議対委員長 武田 浩光  
幹事長 菅原 和忠 政審会長 畠山 みのり

道議会民主・道民連合は5月13日、後期2年間の役員体制を決定した。会長に沖田清志道議、幹事長に菅原和忠道議、議会对策委員長に武田浩光道議、政策審議会長に畠山みのり道議が就任した。このほか、在札道議では副幹事長に田中勝一道議が就いた。後期の体制は次のとおり。

会 長 沖田 清志（苫小牧市）  
副 会 長 池端 英昭（石狩地域）  
中川 浩利（岩見沢市）  
幹 事 長 菅原 和忠（厚別区）  
副幹事長 木葉 淳（江別市）  
小泉 真志（十勝地域）  
田中 勝一（中央区）  
議会对策委員長 武田 浩光（西区）  
政策審議会長 畠山 みのり（南区）  
政策審議会筆頭副会長 鈴木 一磨（北見市）



菅原幹事長



武田議対委員長



畠山政審会長



田中副幹事長